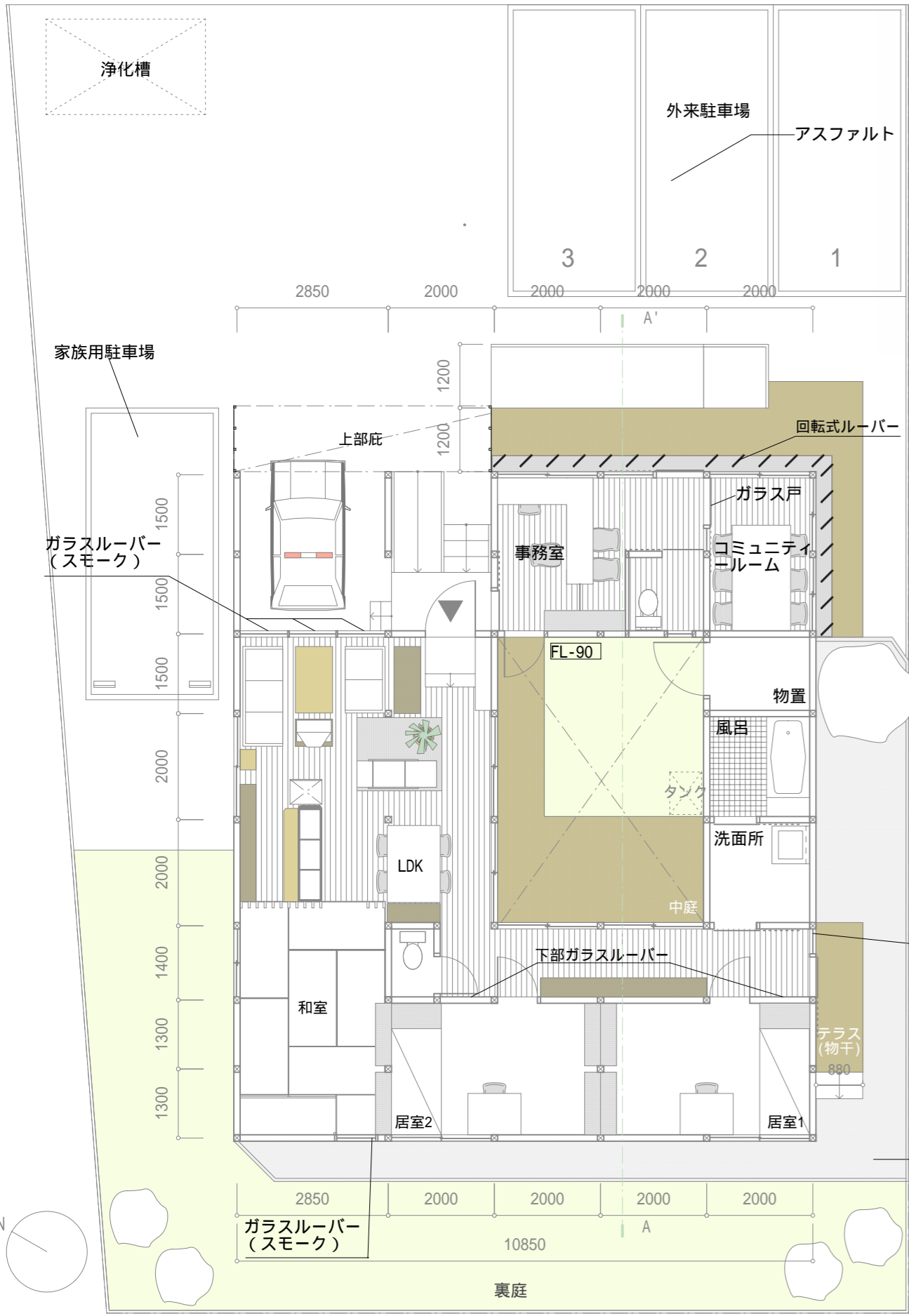


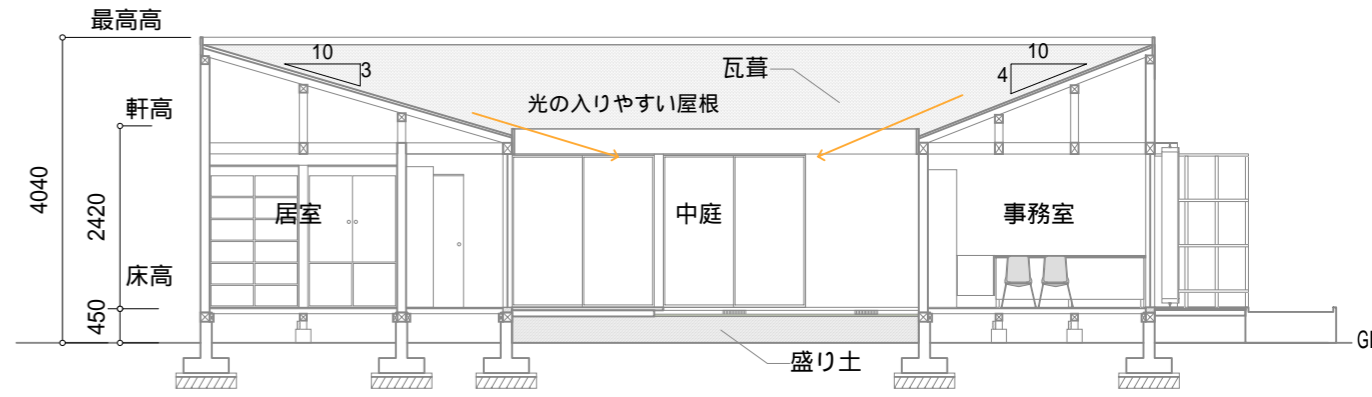
一般的に2~3年のサイクルで異動が行われ、結果として様々な家族が住むことになる駐在所。必要とされた室は確保しつつも部屋同士を一緒にし可動間仕切り収納で仕切ることにより家族の人数や子供の成長・住まい方に合わせて空間を変化させることができるようにした。全体の平面構成は簡潔で使いやすいものとなるように設計した。
 また中庭を中心として部屋で囲むことにより家族は自然と中庭に集まりコミュニケーションが生まれる。また仕切りをガラス戸や木のルーバーにすることでLDKを中庭・和室と視覚的に連続させ狭い面積でも広く感じることが出来るよう工夫した。事務所から住宅部へは中庭のテラスを通過して入るようになっており開放感を与えるつくりとなっている。



居住スペースでは所々に設けられたガラスルーバーを開閉することによりプライバシーを守りつつ通風をコントロールすることができる
 ● :ガラスルーバー



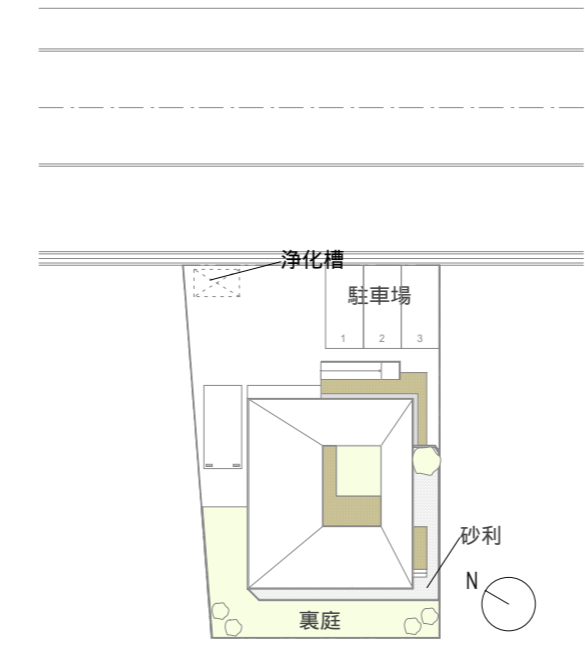
市民にとって非常に身近で訪れやすい駐在所となる



1F Plan 1:100 Concept

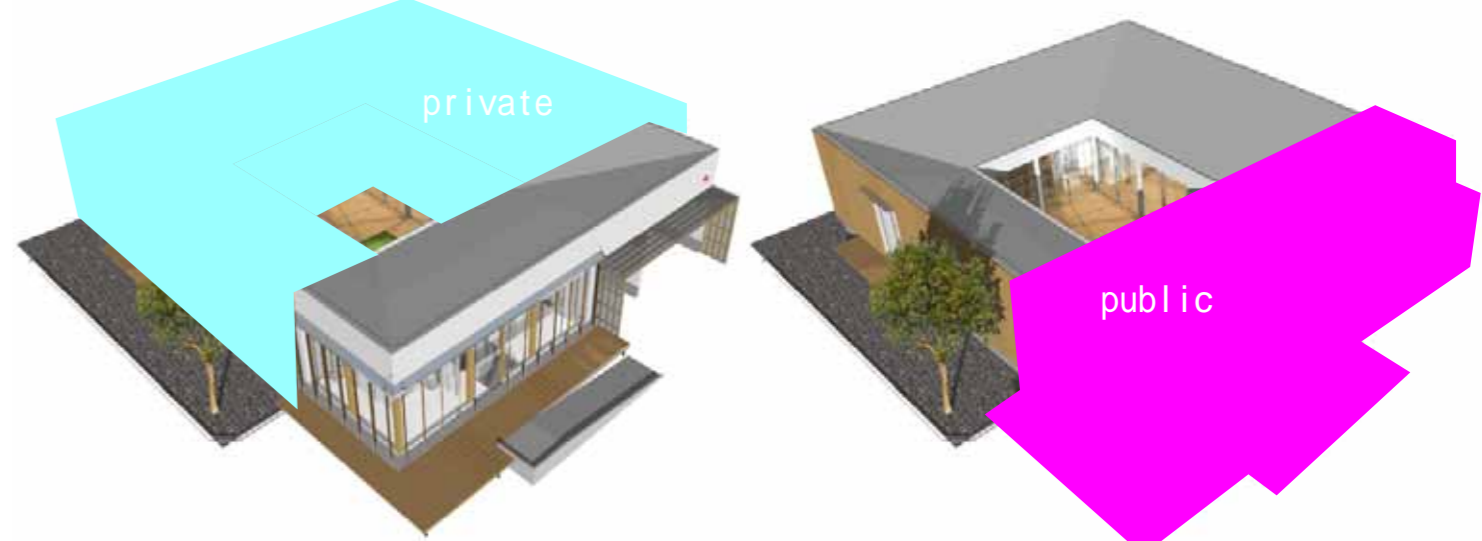
Data Site Plan 1:500

建築面積:155.9㎡
 延床面積:107.6㎡
 最高の高さ:4.04m
 外壁仕上げ:板張り・モルタル塗金
 ゴテ押え
 屋根仕上げ:瓦葺(平板瓦)
 プライバシーの確保に対する提案:
 省エネルギーに対する提案:
 ・駐在所部分では、回転式ルーバーにより日差しを遮りつつ通風を確保する。
 ・居住スペースでは、所々に設けられたガラスルーバーで採光・通風をコントロールする。
 ・屋根の形状を利用して雨水を集めタンクに貯めておき、洗車・打ち水等に利用する。



・同じ建物でありながら公と私の空間を完全に分け住宅は住宅として完全に独立させることで互いの干渉をなくしプライバシーを守る。

・屋根の形状を利用して大部分の光を中庭から確保することにより外部からの視線をあまり気にすることなく生活できる。



今回の提案では従来の駐在所のイメージを一新し困ったことがあれば気兼ねなく訪れること出来る最大限市民に開かれた駐在所を目指した。駐在所を、採光(遮光)、通風調節を可能にしながら開放感を与える回転式のルーバーで囲むことにより、省エネに配慮すると同時に市民にとって非常に訪れやすい印象を与える開かれた駐在所となった。内側に傾く屋根の形状は、構造は単純ながら住宅にとっては中庭、リビングへの光を入りやすくする役割と雨水を集めるための装置としての役割、駐在所にとっては外から瓦が見えず周囲の他の住宅との差別化を図ることにより彦名のランドマークとなるための外観をつくり出すという三重の役割を果たす。彦名と言えばここという場所をつくることで地域の方々により一層地域への誇りと親しみを持ってもらいたいと思う。また居住スペースには中庭を設け、一つの住宅として外部の公的な空間から完全に独立させた。中庭やスモークガラスのルーバーによっても採光・通風を確保できるようにするなど、居住スペースではプライバシーを守りつつ快適な生活を送れることを念頭に置いて設計した。



familiar police HIKONA